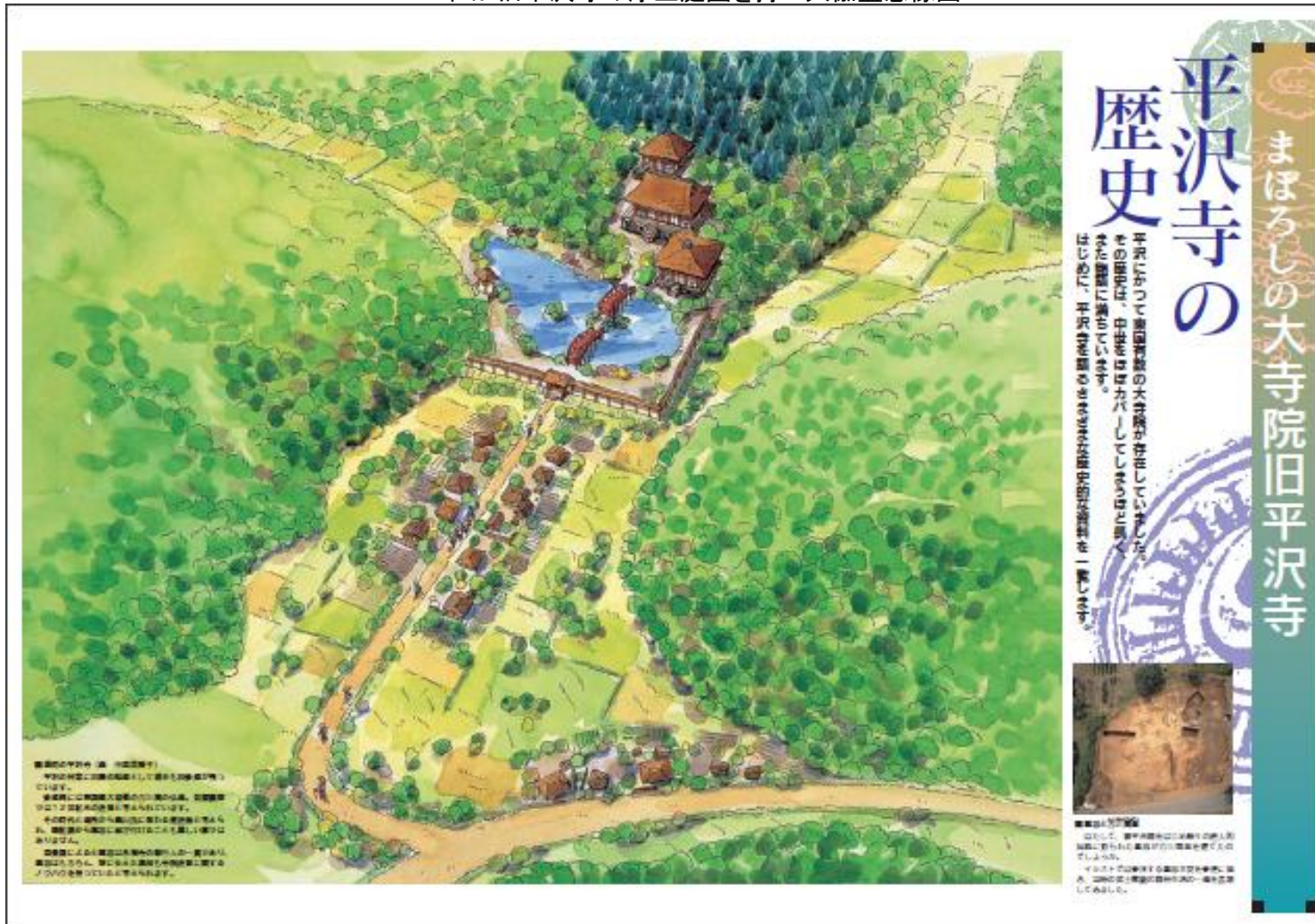


[旧平沢寺跡(比企郡嵐山町)]見学レポート その2

これが旧平沢寺の浄土庭園を持つ大伽藍想像図



上記イラストで当時の参道であったと想定される位置から本堂方向を見る





天台宗平沢寺とある石柱と現在の本堂(正面)



ここを右に少し行くと説明板があった





町指定 史跡

旧平沢寺建物跡

指定 平成九年四月一日
所在 嵐山町大字平沢字赤井一〇七一
時代 鎌倉時代

旧平沢寺（埼玉県選定重要遺跡旧平沢寺僧坊跡群）は、寺の縁起によれば、往時には七堂伽藍と数多くの僧坊が建ち並んでいたと記される中世寺院でした。また久安四年（一一四八）銘の鑄銅経筒（県指定文化財）の出土や『吾妻鏡』文治四年（一一八八）の条に記載があるなど、その重要性が早くから注目されていきました。伽藍の位置や配置などは明らかではありませんでした。

平成八年に実施した範囲確認調査により、当地内から礎石を伴う方三間の建物跡が検出されました。

建物の規模は、一辺が約一〇・六メートル×九・九メートルのほぼ正方形で、周囲には縁がまわり、地方寺院としては破格の大きさです。この建物は、旧参道のほぼ正面にあり、下方には池跡があることから平安時代中頃以降、盛んに信仰された極楽浄土思想に基づく浄土庭園を構成する堂の一つであったと考えられます。また、旧平沢寺はこの建物跡の規模の大きさをはじめ、畠山重忠の居館・菅谷館跡と近いことや鑄銅経筒に重忠の曾祖父・秩父重綱の名があることなどから畠山氏との関係がうかがわれます。

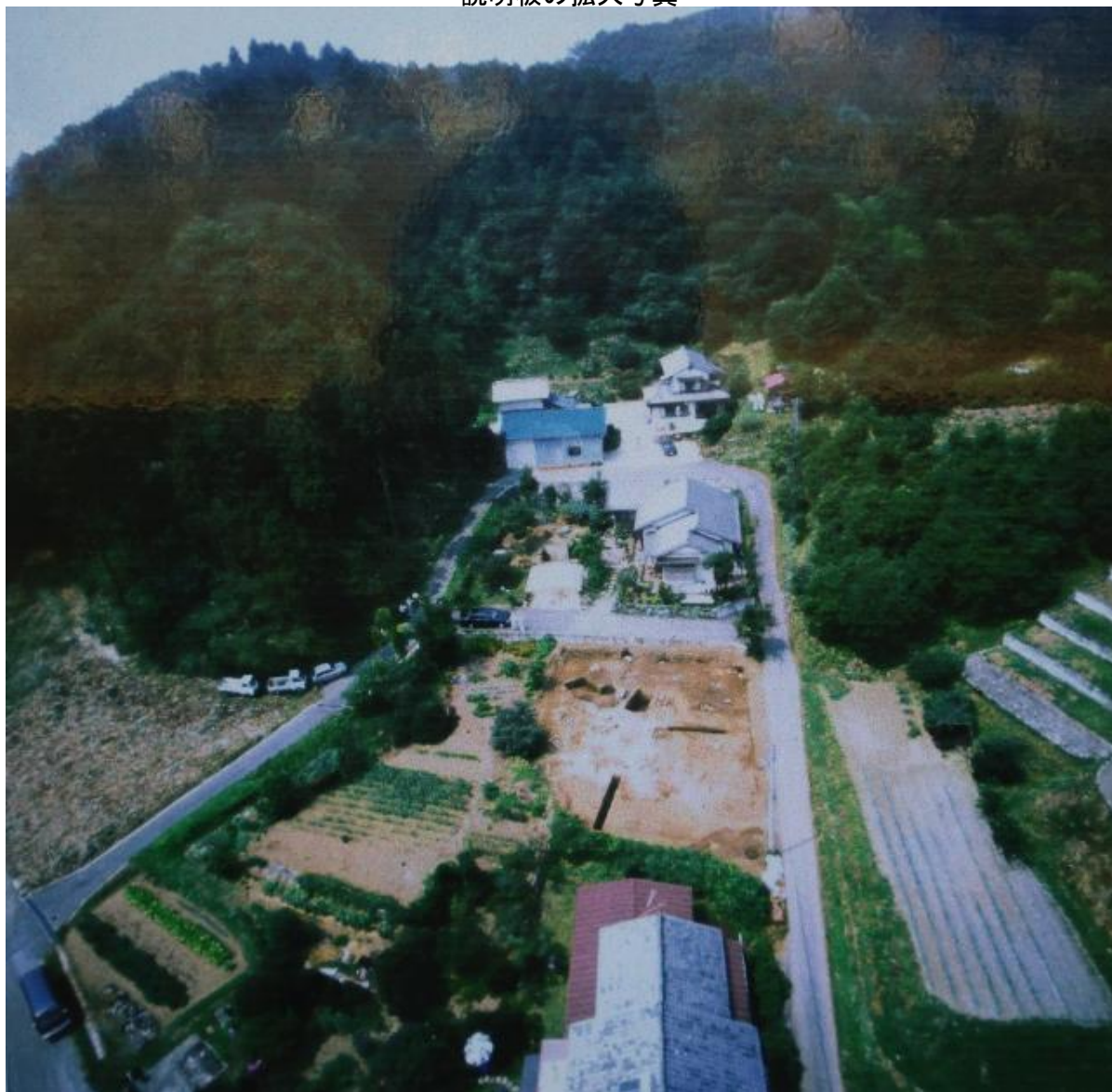


建物跡礎石検出状況

平成十年三月
嵐山町教育委員会

ここが平成八年の調査で検出された礎石を伴う方三間の建物跡

説明板の拡大写真



説明板の拡大写真



建物跡礎石検出状況

方三間の建物は下の絵のような宝形造りの阿弥陀堂と考えられている



阿彌陀堂の遺跡は、方三間の宝形造りであることが確認されています。この遺跡は、平安時代中期に築かれたと推定されています。遺跡の中心には、方三間の宝形造りの阿弥陀堂の礎石が確認されています。また、堂の周囲には、土間や石畳の遺跡も確認されています。この遺跡は、現在も残っており、観光客の多くが訪れています。

阿彌陀堂

発見された堂跡。それは鎌倉時代はじめ、東日本最大規模の方三間阿彌陀堂と考えられます。

方三間の宝形造り

「方三間」は、宝形造りの阿弥陀堂を指します。宝形造りとは、四角形の堂の中心に、三間の柱を立て、その間に扉を設ける造りです。五ヶ目とし、幅が広いので、一応、堂のようなものが造られるはず。

また「方三間」の周りに、土間や石畳の遺跡も確認されています。この遺跡は、現在も残っており、観光客の多くが訪れています。

鎌倉時代中期に築かれたと推定されています。この遺跡は、現在も残っており、観光客の多くが訪れています。




この遺跡は、現在も残っており、観光客の多くが訪れています。

ホームページより

阿弥陀堂跡全景



一番左の堂跡がこの阿弥陀堂跡



ホームページより

堂跡から浄土庭園跡方向を見る



下の道路の向こうに浄土庭園が広がっていたのか



さて、斜面上部にある白山神社へ向かう



上からはこんな風に見えたのか



1 12世紀末頃の平沢寺（画 中里美智子）

この図は中心伽藍部分と浄土庭園にあたる園池を西側の山の中腹から見たところです。

ホームページより

前方が浄土庭園方向



この遠方右手は須賀谷原古戦場方向



ここに浄土庭園、その向こうに参道があったということか



さて、ここが白山神社でその裏手に上の配置図の長者塚があるという



白山神社の脇にはこんな祠があった



長者塚はこの奥か



本堂の下に下りてくるとこんな説明板があった



埼玉県指定旧跡

太田資康詩歌会跡

指定 昭和三十六年九月一日

所在 大字平沢 白山神社境内

時代 室町時代

太田源次郎資康は太田道灌の子で、道灌が上杉定正のために殺害されたことを知ると、定正を討つため、この地平沢に東陣した。

この時、京都相国寺の僧徒桶筒里が訪れ、長享二年九月二十五日夜、敵と対しながら、白山神社前にて萬里送別の詩歌会が催された。そのことが萬里の寺に残した梅花無尽蔵に記されている。境内にはその碑が建てられた。

埼玉県指定文化財（考古）

鑄銅経筒

指定 昭和二十九年十月二十三日

所在 大字平沢九七七 平沢寺

大きさ 高さ二二、五センチメートル 径一、六センチメートル

又安四年（一一四八）在銘の鑄銅製経筒で、享保年間に平沢寺裏の山上より掘りだされた。現在この経筒の蓋は紛失してしまった。平安時代の埋経を物語る貴重な資料である。

昭和四十九年二月

嵐山町教育委員会

白山神社鳥居の脇にはこんな説明板があった



埼玉県史文書要録

田平澤寺跡

成覚山實相院平澤寺は、都農川村の徳元寺と並ぶ天台宗の古刹である。かつてはここ香舟（籍加舟）の各津を中心にして、大なる寺域を誇る寺院だったと伝え、寺の跡地によれば、七堂の伽藍と数多の僧坊が立ち並んでいたと記されている。鎌倉幕府の公式記録である『香臺録』文治四年（一一八八）七月の条には「十三日丁未、成覚國平澤寺院主職事、杖付僧本覚尼。」の記載があり、地方寺院としては破格の扱いを受けていたことが知られる。

現在、往時の堂や僧坊の跡は宅地や畑となつて早に埋もれているが、随所に僅一ノートルもの大きさを測る礎石が地表に露出しており、当時の建物の荘厳さを偲ばせている。ここに並べた大石は道路工事の際に出土した礎石である。

埼玉県史文書要録

鑄銅経筒

この経筒は、江戸時代に白山神社裏手にある長者塚とゆばれる塚より出土したものと推定される。

現在は蓋を失い筒身のみが残る。筒身は筒身を無垢内開形で、やや厚手の重厚な形をもち、高さは二四センチ、外径一二、二センチを測り、艶のある黒褐色を呈する。表面に刻された縁文から沙門實徳と勸進として平朝臣経徳とその縁者が記述となつて、天保四年（一一八八）二月二十九日に鑄造されたものである。また、製作者は藤守守道ほかの人々であったことがわかる。

埼玉県史文書要録

太田資康詩歌会跡

太田資康は太田道深の子である。道深は、江戸城幕府等で知られる知将であったが、幕府、山内兩上杉の争亂の犠牲となり暗殺された。資康は、父の仇敵上杉定正を撃つべく、この地平津に奔陣したといふ。その時、道深の友であった詩歌の大家で元宮部相国寺の僧、漆橋萬里九は、はるばるこの地を訪れた。時に天享二年（一一八八）八月十七日であった。

萬里が陣中に三六日滞在したとき、資康は、萬里のために送別の詩歌会を獻と対峙しながら、ここ白山神社で催した。その詩歌会で、萬里は「桂月」と題して作詩したことが「梅花風流」という書に次のように残っている。

「一戦東勝勢尚加 白山古廟次南流 皆知次第有神助 九月如春月自花」



鑄銅経筒
白山神社寺跡長澤町史

〔縁文〕
敬白 勸進沙門實徳
本流入和法経師一〇
右之者為自他法華平等利益也
天保四年 歲次 二月廿九日 庚
平朝臣経徳方鑄
藤守守道
鑄了某日
藤守守道

埼玉県指定重要道跡

旧平澤寺跡

成覚山実相院平澤寺は、都農川村の慈光寺と並ぶ天台宗の古刹である。

かつてはここ赤井（間加井）の谷津を中心に壮大な寺域を誇る寺院だったと伝え、寺の縁起によれば、七堂の伽藍と数多の僧坊が立ち並んでいたと記されている。

鎌倉幕府の公式記録である『吾妻鏡』文治四年（一一八八）七月の条には「十三日丁未、武蔵國平澤寺院主職事、被付僧永寛訖。」の記載があり、地方寺院としては破格の扱いを受けていたことが知られる。

現在、往時の堂や僧坊の跡は宅地や畑となつて草に埋もれているが、随所に径一メートルもの大きさを測る礎石が地表に露出しており、当時の建物の荘厳さを偲ばせている。

ここに並べた大石は道路工事の際に出土した礎石である。

埼玉県指定有形文化財

鑄銅経筒

この経筒は、江戸時代に白山神社裏手にある長者塚と呼ばれる経塚より出土したものと伝えられる。

現在は蓋を失い筒身のみが残る。筒身は筒素な無節円筒形で、やや厚手の重厚な形姿をもつ。高さは二四センチ、外径一二、二センチを測り、艶のある黒褐色を呈する。

表面に刻された銘文から沙門實興を勧進として平朝臣経繩とその縁者が施主となつて、久安四年（一一四八）二月二十九日に埋納されたものである。また、製作者は藤原守道ほかの人々であったこともわかる。

埼玉県指定旧跡

太田資康詩歌会跡

太田源六郎資康は太田道灌の子である。道灌は、江戸城幕城等で知られる知将であったが、扇谷、山内両上杉の争いの犠牲となり暗殺されてしまう。

資康は、父の仇敵上杉定正を撃つべく、この地平澤に布陣したという。

その時、道灌の友であった詩歌の大家で元京都相国寺の僧、漆桶萬里集九は、はるばる

「一戦東勝勢高加 白山古廟汎南瀛 皆知次第有神助 九月如春月自花」

この地を訪れた。時に長享二年（一一四八）八月十七日であった。

萬里が陣中に三六日滞在したとき、資康は、萬里のために送別の詩歌会を敵と対峙しながらここ白山神社で催した。

その詩歌会で、萬里は「社頭月」と題し作詩したことが『梅花無尽蔵』という書に次のように残っている。



鑄銅経筒
白山神社裏長者塚出土

〔銘文〕
敬白 勧進沙門實興
奉施入如法経御一口
右志者為自他法界平等利益也
久安四年 歲次 二月廿九日 戊午 當國大主敬位
平朝臣経繩方縁等
藤原守道 安了末恒
藤原助貞

平沢寺墓地の全景/右下に赤井の井戸の上屋がある



前方の上屋は赤井の井戸部分







赤井の井戸

赤井とは、本来關ヶ井と書き、成覚山、実相院平澤寺（七堂伽藍（不動堂・大日堂・十一面観音堂・華嚴堂・十王堂・毘沙門堂・弁天堂）三十六坊）の關山の折、溜れることなく凍ることない湧き出する浄水を得て、關ヶ水（仏、不動尊に供える水）とし、又、広く民の心をいやし、千数百年の歳月を経て今日に至った。

平沢の地は、古来より飲み水に不自由し、この井戸を共同利用していたが、昭和三十三年、新農村計画により、赤井の井戸水を水源とする区内浄水道計画によってこの井戸を改造、後に全町上水道化により予備水源となった。この度、昔の井戸を復旧する要望と平沢土地区画整理組合事業地内の「水と緑のプログラムナード」の取水源として、地権者の町への寄贈により由緒ある赤井の井戸を復活し、赤井の名水を後世に伝えるべき遺産としてここに復元した。

平成十三年 三月吉日

嵐山町

なお、既報告済みの「旧平沢寺跡」も参照ください。

参考ホームページ

<http://www.asahi-net.or.jp/~ab9t-vmh/kakuchi/ranzan01/heitakuii.html>

<http://hva34.sakura.ne.jp/hikigunn/heitakuzi/heitakuzi.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/7214781/>

<http://mblog.excite.co.jp/user/ckk12850/entry/detail/?id=7214781>

<http://55bbq.com/ch-04/heitakuii.pdf>

